に宜しからず、不憫ながらも此方は汝の一命を貰つたぞよ」と、思ひがけなきところへ仲光が乘こんできましたから、到底此奴は敵はないと思ひ既に一刀をひいてにげんと致しましたが、到頭仲光の一刀に掛つて斬りつけられました、後の手下は散々離々八方に散亂する奴を、こゝにおひつめ彼處におひつめまして、或は生捕りまたは斬り殺すといふ事に相成りまして、何分賊を生業としてこの街道を騒がす泥棒の事でございますから、別段お咎めもなしい、仲光は頼母に面會をして仲光「まづ〳〵危ないところであつたが、漸う惡人を退治して了つた、これで安心」と、そこでこの一行は河内の高安郡山畑の里へ來つた、無事に俊徳丸と乙姫との結婚の式をあげるといふ事に相成りました、其後この御夫婦の中も至つて睦まじく、弟の次郎丸はその片邊に多くの地面を分け與へて、所謂分家といふのでございまして、これも立派に家をたてるといふ事になりました、信義長者の家の騒動はこれで全く事の落

着がつきました、ところが其後彼の住吉の樂人津村富士の三回忌の祥月命日と相成りましたので、尤も以前から豫て万秋樂の儀に就て一命をはたしたといふ、富士の身上を不憫に思はれましたところから、三回忌の法事は自分の屋敷で、立派に勤めてやりなさる事になりました、就ては彼れが家の一子相傳の舞樂の万秋樂をこの俊徳丸に舞して、在下の者にも見物を許すといふ事になりました、尤も師匠の天王寺の遠山式部をよんでこれをまはすといふ事になつたでございます、また和泉の影山の長者もその當日は來りましたが、家の秘藏の面を贈の俊徳丸に贈つたのでございます、これを一つのはれと致して、その當日は其他信義家に關係のある一家親族は悉くこのまひを見物に參つたのでございます、恰度舞臺の前の處へズッと莚をしきつめて、高安郡山畑の里一箇莊の者は、女子供に至るまで見物したき者は許してやるといふのですから凡そ千人ばかりも集つてその當日は中々賑はしい事でご

います、無事にこのまひもすみましたる後、春藤仲光は自分も舞樂鍛練の仁でありますから、後で一曲まはうといふので、今舞樂の衣裳をつけて、面を被つて烏兜をきまして、數多の樂人の囃しにつれて舞臺にいで、一曲まはうと致しをります折りしも、如何なる事でありましたか、前なる見物の中より、後鬘卷、玉襷、小裾凛々しく高絡げを致しまして、年齢二十二三の女、手に匕首を逆手にもち、敵女「親夫の敵春藤仲光、覺悟をせよ」と、不意に舞臺へとび上つたが、突掛つて參らうとしたる時、仲光は面を被つてはゐるが、ハッと躰を換して手に持てる扇面で、彼れだ利腕をうちましたゝうたれて忽ち持つたる懐劍を夫れへ取落し、殘念と拾ひかゝる襟首を掴んで、グッとそれへねぢふせましたが、仲光「コリヤ、汝何者なればかやうな無禮な事を働く、名を申せッ」と、押へつけて動じません、彼の者は無念の切齒を致しながら、女「サア殺せッ、かやうやり損つた上は迚もうつ事はできない、妾は津

村左京之進の妻の梅ケ枝である」と、云ひながら、春藤の顏をねめつけました仲光「何んだ、左京之進の妻、して何ゆゑ我れを敵といふや　女「されば、我が夫左京之進に塗りつけ、よくも先年殺しておいて、その罪を我が夫左京之進の妻、して何ゆゑ我れを敵と我が夫をお仕置に行うた、長い間夫勇の敵をうたんと艱難辛苦を致してをつたが、今日舞樂のある容子、當館へいりこみ漸う近よつてうたんとして斯かる有樣、此上からは縱ひ此身は一命をすてるとも魂魄汝の皮肉にくひいつて、お兩人樣の仇を返さいでおくべきや」と、涙にくれてをります　仲光「こは異な事を申す奴、津村左京なる者は我が計ひを以てとは、何か證據があつて申すのかハ、ア、さては何者から左樣な事をきいたものとみゐるな　女、されば、我が爲に義理の母千草樣とまた手塚樣に委細の事を聞き、何事も辨へてをるわい　仲光「コレ〳〵、皆まで申すな、大方拙者もさうであらうと心得てをつた、拙者が左京之進を仕置に行ひ

はせぬといふ、證據を茲でみせてやる……アイヤ、津村氏、これへ」といひながら、樂人の方を指しを致しました時、樂人の中より一人の烏兜やうなものを被つてをりましたが、それを脱ぎすて此處へたちいでまして左京「オ、珍らしや、梅ケ枝、其方はよく無事にをつてくれた」いふ聲をきいた時は、梅ケ枝も豈夫とばかり驚きました、といふのは先年仕置に上つた事を思つてをりました左京之進でございますから、梅ケ「さては貴方は我が夫左京様か、どうして此世においで遊ばしましたか」と、非常に驚きました時、左京之進は全く万秋樂の舞樂を讓りうけんが爲め、當家へ忍びこんだのが一つの落度となつて、既に代官所へ引出されて仕置にあげられんとする時、春藤殿の計ひによづて他の者を仕置にあげて我が一命は助けられ、其後は仲光殿の情によつて天王寺の樂人遠山式部の許に預けられ、再び世にでる時節を待つてをつたといふその成行を話をした時は、さてはさうでありましたかと、夫婦は

何事もいはず、唯仲光の方を伏し拜んで嬉し涙にくれました、仲光は仲光「ア、梅ケ枝どの、何事も解つて何より悦ばしい事である此上は唯津村富士殿を殺した者が他にあらうから、それを兩人は捜しいだすが宜らう」今日此席へより集つたる皆の者は、これをきいて大きに仲光の計ひを感心いたしました、ア、春藤といふ仁は實に情け深い人であるといふので、その取計ひに涙にくれて悦びました、その傍に控へてをりました遠山式部は何思うたか此方に對ひ式部「アイヤ、津村左京之進、梅ケ枝の兩人、これへ來つて津村富士の敵を討取るが宜らう、現在敵は茲にあり」と、名乘つていでましたる事でありますから、茲に一同の者は事の意外に驚きましたが、これは彼の富士の家の一子相傳の万秋樂の極意を盗みとらんと、密かに當家へ忍びこんで、俊德丸に敎ふる時、其身は覆面をして忍びいり十分認めましたが、若しか後日に人に知られてはならぬと思ひ、其夜津村富士を殺してにげたといふ曲者は

舞樂の道では本に名前をあげようと致した、遠山式部といふ事が分つたのですが、何うも敵がしれたと申しましても、茲で親の敵といつて討取る譯にはなりません、そこで左京は大きに涙にくれましたのでございます、三回忌の法事の今日に至つてこれがしれるといふのも不思議、併しその罪を憎んでその人を憎まずの例へ親の敵といへど其身は長らく厄介になつてをりまして、いはゆる舞樂の道の師匠でもあるからといふので、却つて式部の罪を許さんと致しましたが、何うも事が納まりませんところから、今はこれまでと思ひましたか、遂に梅ケ枝が其處へ取落しましたる匕首を以て、立派に遠山式部は切腹を致し相はてましたる事でございます、久しく津村富士を殺した曲者は何者とも分らなかつたのですが、全くこの三回忌の法事の當日に至つて、然も敵討ができるといふ事になりました、其後式部の死骸は數多の樂人がよつて訪ひ弔ひを致し、天王寺の境内中にこの仁の塚が立派に建ちました、

舞樂の道は津村左京之進なる者、住吉の父のすまつてをりました場所に、立派に普請を致して、茲でこの道を弘めるといふ事になり、彼の梅ケ枝を改めて我が妻と致し、其後は信義長者の許へも出入を致しましたが、この俊德丸、またその弟の次郎丸、和泉の影山九郎左衛門、住吉の津村左京の家も、何事もなく交際を厚く取結び、それ〳〵その家が榮ねましたといふ、畢竟俊德丸といへる者は、斯やうな次第で父の家の跡目相續を致し納まりがついたといふ、これ俊德丸の實説でございます、長らく伺ひ來りましたが、これを以て大尾を仕ります、御退屈。

實説俊德丸

終

明治四十三年十月一日印刷
明治四十三年十月五日發行

上紙製本

講演者　神田伯龍
大阪市南區末吉橋通四丁目八十六番屋敷

發行者　大淵浪
大阪市南區安堂寺橋通二丁目廿六番屋敷

印刷者　山田元吉
大阪市心齋橋北詰

發行所　駿々堂
電話南千〇〇七番
振替口座大阪千〇三十五番

講談小說

大阪協會

實說俊德丸

大賣捌所

博多成象堂
岡本增進堂
岡原偉業館
柏倉文館
名原奎文堂

中川玉成堂
此村欽英堂
島の內同盟館
積善館
駿々堂

明治四十三年十月一日印刷
明治四十三年十月五日發行

講談小說
大阪出版協會
實說後德丸

上紙製本

講演者　神田伯龍
發行者　大阪市南區塩屋橋通四丁目八十六番屋敷　大淵浪
印刷者　大阪市南區塩屋橋通二丁目廿六番屋敷　山田元吉
發行所　大阪市心斎橋北詰　駿々堂
郵便南千〇〇七番
振替口座大阪千〇三十五番

大賣捌所

博多　岡本増進堂
岡成象堂
柏倉文業館
原文堂
中川玉成堂
村欽英堂
島積善館
内駿々堂
同盟館

◉駿々堂發行講談小說目錄

時人口代情實、素、清、が、穆、榊、傑、探、い、驚、偵、て、動、何、菊、れ、版、合、い、の、順、美、体、依、魔、鏡、客、ム、の、仇、ゐ、善、討、木、い、版、面、彩、白、渡、色、い、悲、原、本、鯨、で、世、表、御、紙、座、話、さ、る、

講談速記

神田伯龍講演 丸山平次郎速記	横棟木の由來	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	伊達騷動横曾根平太郎	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	乳人政岡	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	忠臣伊達安藝	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	豪傑雷太郎	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	後の雷太郎	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	最後の雷太郎	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	講談鶯塚	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記 後編	長柄長者	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	曾呂利新左衛門	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	天笠德兵衛	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	吉原百人斬前編	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	吉原百人斬後編	定價二十五錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	豪勇田宮勘次	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	錢屋五兵衛	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記 美談	金井主水	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	大道寺源左衛門	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	字都宮釣天井	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	おやま小町	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	禪宗小僧	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	小金井小次郎	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	松山狸問答	定價二十錢 郵稅四錢
神田伯龍講演 丸山平次郎速記	松山狸退治	定價二十錢 郵稅四錢

速記小說

石川雅旭講演 速記社々員速記 **松山狸退治後編** 定價二十錢 郵稅四

石川雅旭講演 速記社々員速記 **松山狸退治** 其の後 定價二十錢 郵稅四

石川雅旭講演 速記社々員速記 **研屋辰造** 羽床仇討 定價二十錢 郵稅四

成瀬當一郎講演 山田郡一郎速記 **炭谷虎之助** 明治代 定價二十錢 郵稅四

成瀬當一郎講演 山田郡一郎速記 **筋違御門大仇討** 定價二十錢 郵稅四

成瀬當一郎講演 馬場三郎速記 **千阪光子** 新俠客 定價二十錢 郵稅四

三谷社一郎講演 馬場三郎速記 **孝子の仇討** 玉函家貧燕講演 市坊三太 定價二十錢 郵稅四

三谷社一郎講演 馬場三郎速記 **天草騷動** 定價二十錢 郵稅四

三谷社一郎講演 馬場三郎速記 **千住大橋仇討** 定價二十錢 郵稅四

松房螢吞龍講演 丸山平次郎速記 **小笠原騷動** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **戶田慶次郎前編** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **戶田慶次郎後編** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **肥後駒下駄** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **四ツ車大八** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **一休禪師前編** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **一休禪師後編** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **煙草屋喜八前編** 定價二十錢 郵稅四

松月堂吞龍講演 丸山平次郎速記 **煙草屋喜八後編** 定價二十錢 郵稅四

成瀬虎吉講演 井下士青速記 **黑田騷動** 定價二十錢 郵稅四

成瀬虎吉講演 井下士青速記 **栗山大膳** 黑田騷動 定價二十錢 郵稅四

成瀬虎吉講演 井下士青速記 **倉橋重太郎** 黑田騷動 定價二十錢 郵稅四

成瀬虎吉講演 井下士青速記 **お秀の方** 黑田騷動 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 中村卯吉速記 **刈萱石童丸** 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 丸山平次郎速記 俠客 **新門辰五郎** 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 丸山平次郎速記 敵討 **ねぎり勝五郎** 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 丸山平次郎速記 仇討 **菅野彌一郎** 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 丸山平次郎速記 **女俠客奴の小万** 定價二十錢 郵稅四

石川一口講演 丸山平次郎速記 **字和島神靈記** 定價二十錢 郵稅四

速記小說

石川一口講演 丸山平次郎速記 **伊達與作** 定價二十錢 郵稅四

賣家錦玉講演 小川玉峰速記 **蓮池左近** 案探仇討 定價二十錢 郵稅四

賣家錦玉講演 小川玉峰速記 **勇婦友鶴** 遠池後編 定價二十錢 郵稅四

賣家錦玉講演 小川玉峰速記 **宮川堤大仇討** 後の友鶴 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **業平小僧金五郎** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **獄門小僧初之助** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **鼠小僧次郎吉** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **御家人小僧德太郎** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **天狗小僧霧太郎** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **吉田御殿** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **怪談皿屋敷** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **明治天一坊** 定價二十錢 郵稅四

松林伯圓講演 速記社々員速記 **御所五郎藏** 定價二十五錢 郵稅四

松林若圓講演 速記社々員速記 **花井お梅** 定價二十五錢 郵稅四

松林若圓講演 速記社々員速記 **二代鹽原多助** 定價二十錢 郵稅四

松林若圓講演 速記社々員速記 **德川十五代記** 上卷 定價二十錢 郵稅四

松林若圓講演 速記社々員速記 **德川十五代記** 中卷 定價二十錢 郵稅四

松林若圓講演 速記社々員速記 **德川十五代記** 下卷 定價二十錢 郵稅四

玉田玉芳齋講演 丸山平次郎速記 **三賢明智傳** 定價二十錢 郵稅四

玉田玉芳齋講演 丸山平次郎速記 矢代騷動 **譽の大久保** 定價二十錢 郵稅四

玉田玉芳齋講演 丸山平次郎速記 **野狐三次前編** 定價二十錢 郵稅四

玉田玉芳齋講演 丸山平次郎速記 **野狐三次後編** 定價二十錢 郵稅四

玉田玉芳齋講演 丸山平次郎速記 **水戶黃門巡遊記** 定價二十錢 郵稅四

笑福亭松鶴講演 山田郡一郎速記 水戶黃門 **西國巡遊記** 定價二十錢 郵稅四

旭堂南陵講演 山田郡一郎速記 **毒婦天人お駒** 定價二十五錢 郵稅六

旭堂南陵講演 山田郡一郎速記 **原田甲斐** 定價二十錢 郵稅四

岡本起治講演 井下士青速記 俠客 **仁田仁兵衛** 定價二十錢 郵稅四

神田伯龍講演 速記社々員速記 **笹野權三** 定價二十錢 郵稅四

265
351

講談速記小說

時代情話　人口膾炙
系譜から出た傑作
合戰の模倣
動機何れも奇拔
世紙面を賑はす

曾呂利新左衛門作　丸山平次郎速記　**大和めぐり**　定價二十錢　郵稅四錢

曾呂利新左衛門作　丸山平次郎速記　**伊勢參宮**　定價二十錢　郵稅四錢　山崎琴音講演　山田都一郎速記　探偵小說

四尾東林講演　丸山平次郎速記　**內海權三郎**　定價二十錢　郵稅四錢　山崎琴音講演　山田都一郎速記　探偵小說

四尾東林講演　丸山平次郎速記　**忠節お初**　定價二十錢　郵稅四錢　鏡山復讐　唯我行者著　商船探偵

四尾東林講演　丸山平次郎速記　**弘法新太**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

東雲亭喜一講演　山田都一郎速記　**松本四郎太郎**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

貴井琴愛講演　山田都一郎速記　**荒木又右衛門**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

翁家さん馬講演　丸山平次郎速記　八百屋お七　**戀の緋鹿子**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

翁家さん馬講演　丸山平次郎速記　**祐天小僧吉之助**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

三遊亭花遊講演　丸山平次郎速記　**貞女の仇討**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

放牛舍林講演　丸山平次郎速記　**露の簾朝顏物語**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

多田琴玉講演　速記社々員速記　**岩見重太郎**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

多田琴玉講演　速記社々員速記　**後の岩見重太郎**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

古名錦山講演　耳津玉吉速記　加賀騷動　**高田善藏**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

山崎琴音講演　山田都一郎速記　探偵小說　**古澤敬次**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

山崎琴音講演　山田都一郎速記　探偵小說　**血染革包**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

山崎琴音講演　山田都一郎速記　探偵小說　**夢の世界**　定價二十錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

唯我行者著　商船探偵　**電話の詐僞**　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

瀧夜叉お仙　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

監獄破　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

華族變死　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

暗穴地獄　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

幽靈奇談　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

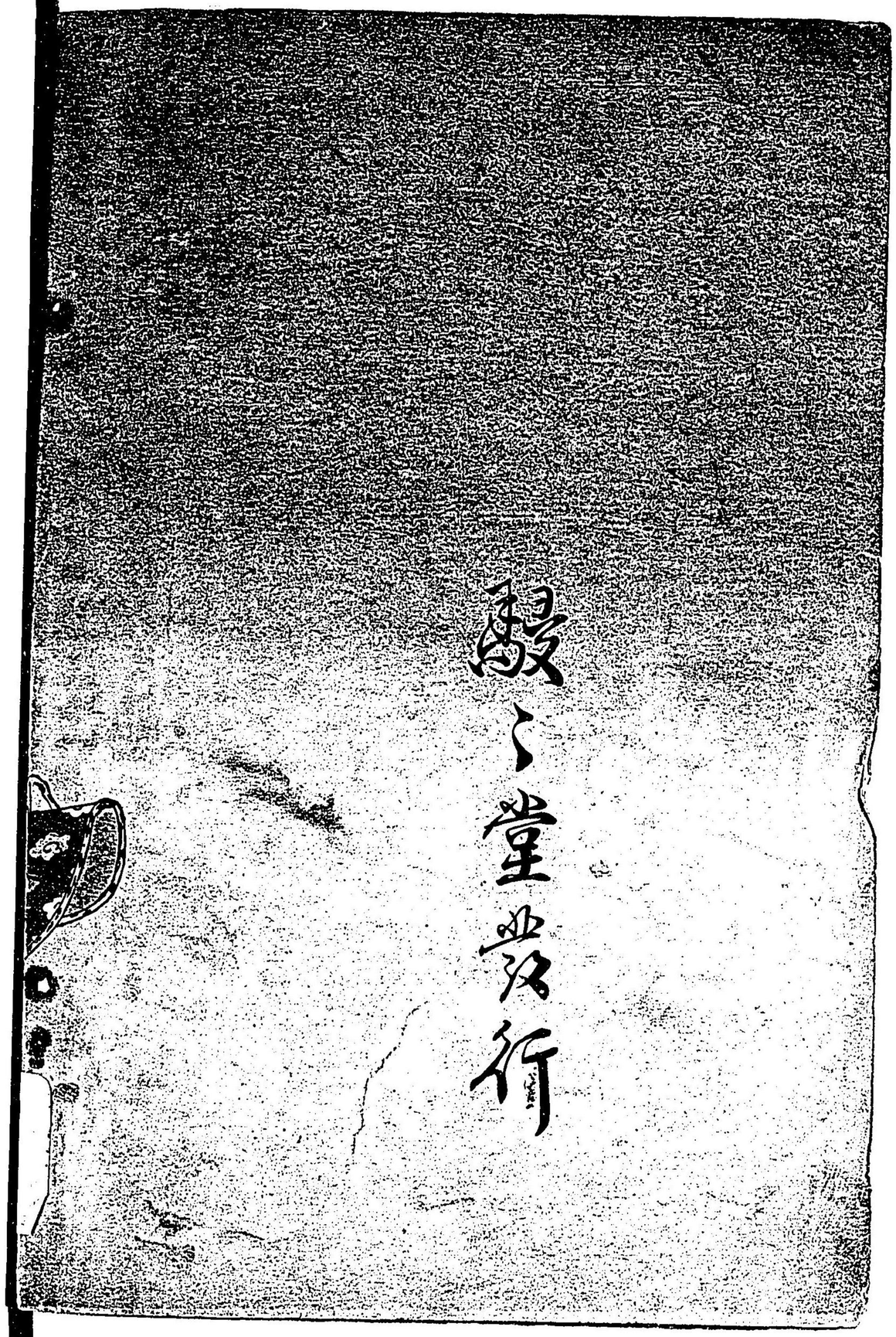
晒し首　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

妾の魂膽　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

秘密電報　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

般若の面　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵

滝車强盜　定價二十五錢　郵稅四錢　島田柳川著　探偵


敬文堂發行